

*The 5 Points
in Magic*



ファイブ・ポイント

自分のマジックがみるみる変わる 実践演技理論

著

ホアン・タマリッツ

翻訳

滝沢 敦

株式会社リアライズ・ユア・マジック

スクリプト・マヌーヴァ

謝辞

この本のために使用する写真を奇跡的な腕前で探してくれたジーマ・ナバッコに。またそれをスキャンしてくれたフランチェスコ・ムグナイと、文章の修正や素晴らしい表現方法に対して山のような助言をくれたラファエル・ベネターに。

Copyright © 1982, 1988, 2007 by Juan Tamariz and Stephen Minch.

All right reserved under International Copyright Conventions. No part of this publication may be reproduced or distributed in any form or by any means, or stored in a database or retrieval system, without the prior written permission of the publishers.

本書は Juan Tamariz および Stephen Minch より翻訳の許可を得て出版したものである。

目次

プロローグ	7
イントロダクション	10
ファイブ・ポイント	12

ポイント1：視線

プレゼンテーション	19
感情表現のテクニック	20
視線によるミスディレクション.....	24
ハンカチに現れるカード	27
リボンスプレッド・フォース.....	33

ポイント2：声

聞こえやすさ	39
様々な発声	40
アルズ・トッパー.....	44

ポイント3：両腕

美しい動き	55
表現力.....	56
クリーンさ	59
プローティン・ポーカー	61

ポイント4：両足

ニュースペーパー・ルール	69
--------------------	----

ポイント5：体

ボディ・ランゲージ	75
アッパー・カット.....	78

エピローグ.....	93
参考文献	95

プロローグ

1982年。私はこの小さな本を、何のてらいもなしに一週間という期間で熱に浮かされたように書き上げました。この本は予想外に評価され、原著であるスペイン語版を出版するやすぐにみなが購入してくれたのです。親しい友人であるロベルト・ジョビ（彼には世界中のマジシャンが多くの恩恵を受けています！）によってドイツ語版とフランス語版が出版されたときも同じような状況でした。同じ年に英語版が少数で（およそ200部）、かの博覧強記ジェフ・バズビーによって発行され、彼は自身が出版している「Eoptica 誌」上でこの本に関する実に深い書評を書いてくれました。

素晴らしいマジシャンでありスペインが誇る俳優でもあるアルトゥール・ロペズは「この薄い本はとてもユニークな専門書であり、俳優にも応用できる内容である」と評してくれました。私が尊敬してやまないマイケル・アマーも、著書「Success in Magic」の中で他の数冊の本とともにこの本を手放して賞賛してくれました。フランスにいる私の“弟”ゲータン・ブルームや“兄”であるアルゼンチンのラドヤード・マガルディをはじめ多くの人たちが声をそろえて評価してくれたのです。それはこの本が私のエゴを満たすものではなく、私のマジシャンとして、また映画監督としての苦心に満ちた体験の成果であることが見えるから、そしてこの素晴らしいアートへの私の全幅の愛情が感じられるから、という理由からでした。

1988年にはわずかに表現を書き換えたものをドナルド・レーンに再翻訳してもらったハードカバー版を出版しました。これは売り切れとなり、以前の版

と同様プレミアがついて入手困難になってしまいました。そこでついに今回、再出版を望む人々のために新しく編集しなおしたものを出版することになったのです。

ハードカバー版を作った目的は、スタイルとデザインを3部作の他の2作と統一するためです。

そう、3部作。私は、自分がどのようにマジックというアートを見ているかを3冊の本にまとめるつもりなのです。

『ファイブ・ポイント』では、いかに観客に対し不思議を提供する良き案内役になるか、その方法をまとめました。いかに我々の観客への気持ち（つまり、愛）を伝えるか、いかに我々のアートへの気持ち（愛）を伝えるか、そしていかに情熱をもって（愛とともに）観客とコミュニケーションを取るか、について記しています。

第2巻『マジック・ウェイ』ではいかに道筋を構築するかを記します。いかに観客が迷わないように、またタネを暴こうなんてしないように、我々が用意した道筋に沿って歩んでもらうのか。観客の知的な旅をいかにダイレクトにそしてクリアに誘導し、安全に我々のゴールである“マジックによる感動”までたどり着いてもらうのか。

完結編である第3巻『マジック・レインボウ』（これは25年をかけて執筆中であり、もうじき書き上がる予定です。では“マジックによる感動”について細かく探求していきます。もし十分な技量を持ったマジシャンが^{マジック・ウェイ}“この道”にそって観客を誘導し、“マジックによる感動”^{マジック・レインボウ}の入り口に連れてきたならば、観客はもはやマジックを魅力のないものだと思ったり、単なる難しいパズルだと考えたりはしないでしょう。

そのため『マジック・レインボウ』の主題は**マジックの現象**になります（ちなみに『ファイブ・ポイント』の主題は**プレゼンテーション**であり、『マジック・

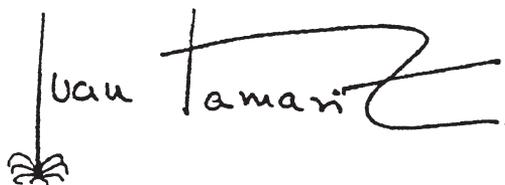
* 2012 年前半にスペイン語版の執筆は完了しました。

ウェイ』の主題は**構造と手法**です)。クラシックな現象を学ぶことでそれらが本来象徴している「夢と人間の欲求」について学び、いかにそれらの魅力を増大させ、いかに思い出に残る演技（魔法の虹へとつながる風となる演技）にし、いかに演じるマジックの本質を増大させるかについて記します。

この3部作が、私のように道筋をさぐり、我々の愛するアートであるマジックの精神を追い求める人々の考えを少しでも刺激してくれることを願って。

この探求の道に、皆さんを招待しましょう。

ホアン・タマリッツ

A handwritten signature in black ink. On the left, there is a vertical line that ends in a small, stylized flower or plant-like symbol. To the right of this symbol, the name "Huan Tamari" is written in a cursive, handwritten style. The "Huan" is written in a simple, blocky font, while "Tamari" is more fluid and connected to the vertical line.

ファイブ・ポイント

現代においてマジシャンというと、一般の観客は「とても器用な好人物」をイメージします。一方マジシャン側である我々が抱くマジシャンのイメージは「素晴らしいテクニックと卓越したユーモアセンスを持っていて、プロフェッショナルとして認められるような観客受けするアクトを見せてくれる人」というものです。

しかし素晴らしいマジシャンであり分別のあるアーティストでもある人には、得意分野の種類に関わらず、少なくとも2つの共通したものが必要であることは、あまり意識されていません。

1つめは不可能な現象を引き起こすための雰囲気を作り出す能力であり、2つめは観客とのコミュニケーション能力です。

1つめに関して書かれた書物は数こそ少ないですが、素晴らしいものはいくつかあります。ダイ・ヴァーノン、ダリエル・フィッツキー、アルトゥール・アスカニオ、ジョン・ネヴィル・マスケリン、S・H・シャープなどの書籍です。

2つめに関してはもっと少ないものの、ダリエル・フィッツキー、ヘニング・ネルムズ、トニー・スライディーニなどが言及しています。

数年前より私は彼らの研究を始め、彼らの理論を現代の素晴らしいマジックに応用された例を分析してきました。これにクローズアップやステージ、TV番組を通して私が接してきたあらゆる種類の観客の反応と、パフォーマーとしての経験（プロとして12年、アマチュアとして25年）を組み合わせて考えを進めました。だから自分のことをこの分野の権威（なんという言い草だろう！）と言うつもりはありませんが、少なくとも論理的な思索の末にたどり着いた考えを、ここに記そうと思います。

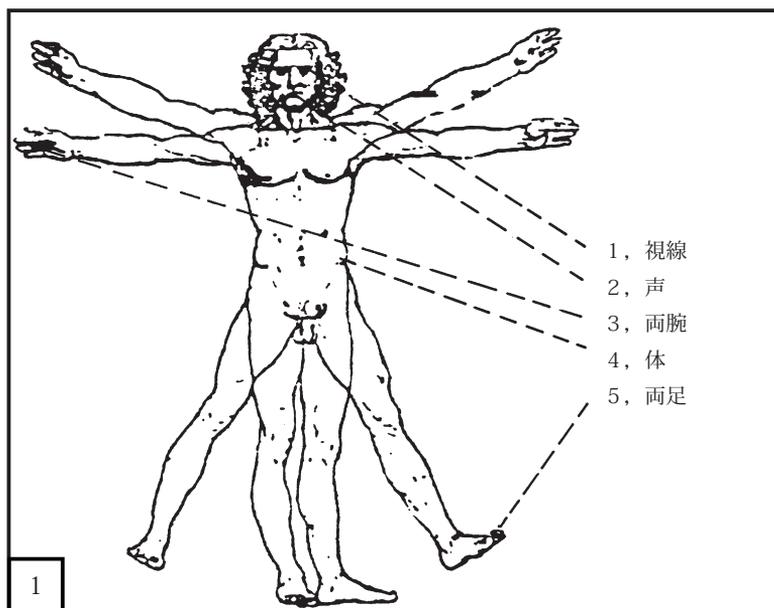
結論から言うと、我々が観客ときちんとコミュニケーションを取り、不思議

な出来事の魅力を余すところ無く伝えようとすれば、五体全てを駆使しなければいけない、ということなのです。

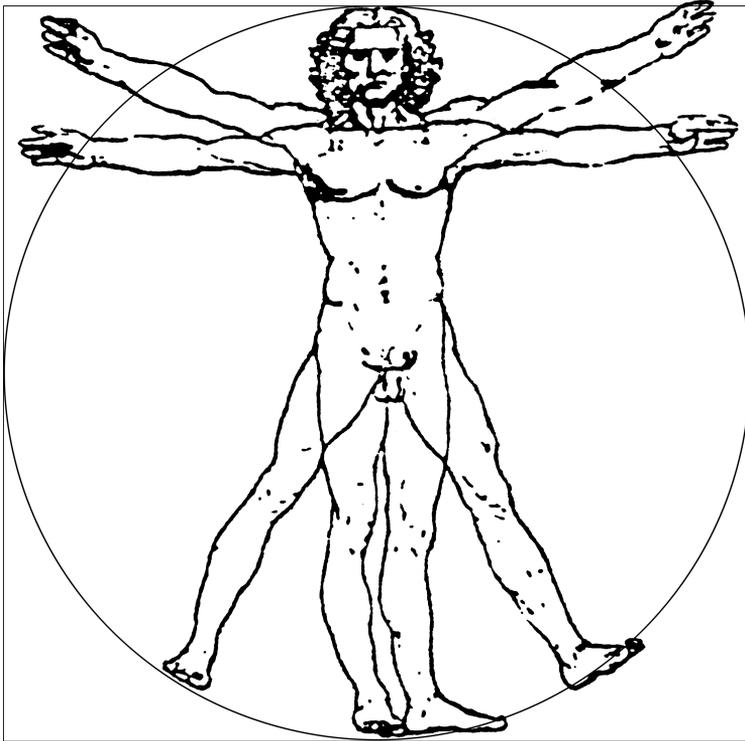
一見ごく当たり前のことを言っているように思えるでしょう。しかし大変な時間をかけた沈黙考の末に、ようやく腑に落ちた結論なのです。マジカルな雰囲気伝えることに失敗したのなら、それは道具でもトリックの問題でもなく、それどころかアイデアや舞台装飾、照明や電気機器の問題でもありません。

観客に感情や考えを伝えられるものはたった一つだけ。我々の五体です。つまり視線、声、両腕、両足、そして忘れてはいけないのが体全体を使った動きやジェスチャーです。この本ではこの^{ファイブ・ポイント}5点に焦点を当てました。それぞれのポイントを解説するために、ポイントごとに1つずつマジックの実例をあげています（ただし「両足」の項はのぞく）。これらは単なるマジックの手順解説ではなく、どのようにして観客にマジックの魅力を伝えるかについてを詳しく説明したものです。足の動きは演技の見栄えに影響し、この部分を改善するだけでも演技のレベルが一段上がることでしょう。

5つのポイントを、偉大なダヴィンチの助けを借りて図に示してみました。



ここで示す考え方は唯一の正解ではないし、永遠の真理というわけでもありません。これからみなで議論していく必要がある考え方の、単なる発端です。親愛なる読者の皆様、この本を読み進めていくうえではまずこのことを念頭においておいて下さい。そしてもし本書の内容が独善的でえらぶっているように感じたら、次のことを覚えておいて欲しいのです。私がこれを書く理由は、みなさんに私の情熱を伝えたいからだけだ、ということ。



ポイント 1

視線

プレゼンテーション

- ◆ 演技を始める前に、観客全体を見まわす。観客の頭を扇子で横向きにゆっくりあおぐように、視線を巡らせる。
- ◆ 観客の眉間を見る。ただし柔らかく、凝視しないように気をつけること(図2)。
- ◆ レンズの色の濃い眼鏡はかけないこと。演者の視線がよく見えなくなり、視線がごちちなく感じられてしまう(図3)。
- ◆ 視線は、感情を伝える手段として使うこと。愛情、コミュニケーションを取りたいという気持ち、皮肉、遊び心、驚き、リラックス、愛らしさ、不思議さ、失望感、必死さ、プライド、怒り、恐れ、嫌悪感、博愛など。

